

イスラエル大使がアンネのバラを視察

20日、杉並区立高井戸中学校（高井戸東1-28-1）の「アンネのバラ」の一般公開に、イスラエル大使が来場しました。地域で大事に育てられている平和のシンボルを視察して、「アンネが多くの人に愛されていることを知り安心した」と笑顔で話しました。

「アンネのバラ」は、つぼみは赤色で花が開くとオレンジ色になり、徐々に花弁が淡いピンク色に変わっていく、グラデーションのとても美しい品種です。昭和50（1975）年、高井戸中学校の当時の2年生が、国語の授業で「アンネの日記」を学び、感想文を冊子にまとめて、オットーさんに送ったことから交流が始まりました。翌年の昭和51（1976）年にオットーさんから高井戸中学校にアンネのバラ3株が届き、そのバラを生徒や保護者、地域の方々100人ほどで構成する「アンネのバラ・サポーターズ」が、世界の平和を願い大切に育てています。その結果、バラは約140株にも増え毎年美しい花を咲かせています。10年ほど前から、一般公開も行うようになりました。

今年、都内の公立図書館でアンネの関連本が切り裂かれる事件が発生。杉並区でも11館で121冊の被害を受けました。このニュースは、世界中に配信されました。すると、イスラエル大使館が、いち早く被害に遭った図書館に対し、本の寄贈を申し出がありました。今回、高井戸中学校のバラの一般公開に合わせて、寄贈された本の展示を行うこともあり、4月の終わりに「アンネのバラ・サポーターズ」から、大使館あてに一般公開の案内を添えて感謝の手紙を送りました。

今年一般公開は、5月17日から本日20日までの4日間です。最終日の本日9時、ルツカハノフ駐日イスラエル大使が、忙しい公務を縫って来場しました。大使は、「アンネの日記が破られる事件で、とても心を痛めていましたが、この見事に手入れをされたアンネのバラを見て、アンネが多くの人に愛されていることを改めて確認でき安心しました。」と笑顔で話していました。



アンネのバラの一般公開は、例年、200～300人ほどが来場者でしたが、今年は事件によって注目度が上がり、連日多くの来場者で賑わっています。中には茨城県や埼玉県などの遠方から来場もあり、期間中の来場者は1200人を上回る見込みです。

また、高井戸中学校のアンネのバラは、今後、全ての区立図書館（全13館）に順次株分けされる予定です。その第1弾として、6月15日（日）には、区立中央図書館（荻窪3-40-23）で移植式が行われます。区では、今年2月に都内各地の公共図書館などでアンネの日記や関連書籍が破られた事件を風化させることなく、改めてアンネの想いを引き継ぎ、平和を願う心を広めていきたいと考えています。